

# 変革の時代に

特許審査第一部材料分析 樋熊 政一



ご紹介いただきました、樋熊政一と申します。

任期付採用の新人を代表しまして、ご挨拶させていただきます。

はじめに、ご来賓の皆様方におかれましては、ご多忙中ご出席いただき、また、大変貴重なお言葉をいただき、誠にありがとうございます。本日いただいた言葉を胸に、一步一步、進んでいきたいと思っております。

2008年4月、私たちは入庁しました。この年、この時代に入庁し、特に強く意識すべきと考えている点、3つ挙げてみたいと思っております。

まず1点目、「審査の迅速化」です。

私たちは、まさにこの施策の下で、採用されたと言えます。任期付採用の特色である、研究開発業務の経験、そして知的財産業務の経験等を生かして、審査の迅速化に貢献していきたいと思っております。

2点目、「審査の質」です。

審査効率を上げる一方で、当然、審査の質も高めなければなりません。今後の研修、日々の実務を通して、磨きをかけていきたいと思っております。審査の質を常に意識すること、そして、自己研鑽し続けることによって、

自分たちの、任期満了後の活躍の場にも、繋がっていくものと考えています。

3点目、「変革の時代への対応」です。

私自身は、半導体産業、そして医療機器産業の中に身を置き、日々の技術革新を、肌で直接感じてきました。

例えば半導体分野においては、「トランジスタの集積密度は1年半から2年で倍になる」、という「ムーアの法則」と呼ばれる有名な法則があります。実際、半導体のパターンの幅は、60年の時を経て、20nmを目指す時代に突入しました。

このような時代においては、新しいアイデアが生まれ、そして新しい技術・産業が誕生しつつあるといえます。医療機器分野、私が携わっていた内視鏡の世界では、直径10mm、長さ25mm程の、カプセル型の内視鏡の技術も誕生しました。

こういった技術の変革期、そして知的財産権が注目されるような社会構造の変革期に、審査官という職業に就けることは、非常に大きな喜びであります。審査官として、知財人として、今後の新たなニーズにも応えられるような人材となれるよう、一同、努力していきたいと思っております。

最後となりますが、本日お集まりの諸先輩方々には、これからも多数、お世話になることがあると思っております。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。以上です。本日はありがとうございました。